

公表

事業所における自己評価総括表 児童発達支援

○事業所名	マムの丘		
○保護者評価実施期間	R7年 2月 1日		R7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 2人	(回答者数) 2人	
○従業者評価実施期間	R7年 2月 1日		R7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7人	(回答者数) 7人	
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 8日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ひとりひとりの気持ちや特性に合わせて活動への参加や取り組みを考えている。	児童が本当に楽しめることなのか、活動に参加するためには何が必要なのかを児童の取り組む様子や会話からすくいだして、できることや活動の幅を広げられるように取り組んでいる。	児童の気持ちに寄り添えるように必要に応じて話をする機会を設けていく。また、児童が気持ちを言葉にしやすい環境づくりや職員との関係づくりに努めていく。
2	畑での野菜の生育や、庭での体幹トレーニング・運動など外活動が充実している。	児童の目標に合わせて運動の項目を変えたり、活動を変化させたりしている。また、そこからみられる体の使い方やルールを理解、友だちとの関わり方などを職員間で共有している。	より成長を促すためルールのある遊びや、友だちと協力する遊びなど取り組みの幅を広げていく。 楽しい活動になっているため、取り組むために宿題を終わらせることや片付けができることなど、必要なことを行うやる気にもつなげていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	パート職員及び保護者に対して個別支援計画作成時の細かな取り決めや、有事の際のマニュアルについて伝達できていないことが分かったので、確実に伝達して情報居有していく必要がある。	伝達できる時があまりないことや伝えつつもりで終わっていたのではないか。	パート職員には月1回のミーティングできちんと伝えていく。また、保護者にはモニタリング時や、LINE、お知らせ等を使って伝達する機会を作っていく。
2	保護者同士の交流の機会が少ない。	交流できる機会を設けていない	交流自体を求める有無があるかもわからないので、アンケート等を用いて調査した後、必要に応じて交流できる機会をどのように設けていくか従業員で話し合っていく。
3			